

# 新規就農 ガイドブック

監修：全国新規就農相談センター

発行：一般社団法人 全国農業会議所



## はじめに

サラリーマンなど農業以外の分野から新たに農業を始める人たち、「新規就農者」に注目が集まっています。また、若い世代を中心に、農業法人への就職を希望し、雇用されることで農業の世界に飛び込む人たちも増えてきています。農林水産省もこうした新規就農者や農業法人への就職希望者を支援する施策を強化しています。

全国農業会議所は、昭和62年度から、農業内外の新規就農希望者の就農相談窓口として、「全国新規就農相談センター」を設置しており、各都道府県の就農相談窓口と一緒に相談活動に取り組んできています。

本書は、全国新規就農相談センターの監修のもと、就農にあたって知っておきたい基礎知識や活用できる制度等についてまとめました。農業へのイメージをふくらませること、新規就農に必要な経営資源を確保すること、どこでどんな農業をするか計画することなどです。

最後に、編集にご尽力いただいた関係者のみなさんに深くお礼を申し上げます。この本が、新規就農希望者や就農を支援する関係機関・団体のみなさんに広く活用されるのであれば幸いです。

令和5年3月

一般社団法人 全国農業会議所

# 1

## 農業へのイメージをふくらませる

### 農業を始める理由はさまざま

会社勤めや自営業などを辞めて農業をめざす人が増加してきています。新規就農者を対象に全国新規就農相談センターが行った「令和3年度新規就農者の就農実態に関する調査結果」（以下「新規就農者実態調査」）によると、「経営」や、「自然・環境」に関する理由の割合が高い一方、「安全・健康」や「家族・自由」に関する理由も一定数いるなど、農業を始めるきっかけは多様化してきています（表1）。

### 就農までの道筋

新たに農業を始める場合、特に特定の試験に合格するといった資格が必要なわけではありませんが、あえて言えば、農業をやりたいという強い意志と意欲をもっていることが大切な条件です。

新たに農業を始める場合、①営農技術を身につけること（技術やノウハウの習得）、②営農資金や当分の間の生活資金を確保すること（資金の確保）、③生産の基盤である農地（田や畑）を借りるなり、買い入れをすること（農地の確保）、④農業機械や栽培用ハウスなどを用意すること（機械や施設の確保）——といった農業の経営資源を確保する必要があります。

また、多くは移住をとまなうため、⑤生活の拠点となる住宅を用意すること（住宅の確保）も必要です。これら「五つの要素」は農業を始める上では欠かせないものです。

準備は一朝一夕で終わるものではありません。「新規就農者

実態調査」によると、具体的なアクションを起こしてから就農までに要した年数はどの年代においても7割近くの方は1年以上かかっています(図1)。時間をかけて準備する心構えを持っておきましょう。

表1 就農した理由(三つまで選択)

単位：%

就農した理由		今回調査	前回調査	前々回調査
		2021年	2016年	2013年
自然・環境	農業が好きだから	36.4	40.4	37.7
	自然や動物が好きだから	20.1	18.8	23.6
	農村の生活(田舎暮らし)が好きだから	15.7	16.2	18.4
安全・健康	食べ物の品質や安全性に興味があったから	17.0	20.0	19.8
	有機農業をやりたかったから	10.8	11.9	14.0
家族・自由	時間が自由だから	28.3	24.1	27.4
	家族と一緒に仕事ができるから	15.1	19.8	19.8
	子供を育てるには環境が良いから	10.5	10.0	11.2
	配偶者が農業を始めたから	2.0	-	-
経営	自ら経営の采配を振れるから	51.6	52.3	45.8
	農業はやり方次第でもうかるから	35.2	38.2	32.3
	以前の仕事の技術を生かしたいから	7.9	7.9	6.5
消極的	会社勤めに向いていなかったから ※	22.1	16.6	13.8
	都会の生活に向いていなかったから	5.2	3.9	2.5

※「会社勤めに向いていなかったから」=旧「サラリーマンに向いていなかったから」として前回データ掲載

出典：新規就農者実態調査